

病害虫発生予察予報第3号（7月の予報）

佐賀県

目次

1. 7月の病害虫	1
2. 気象概要	2
3. 予報の内容・根拠等について	2
4. 7月の予報	
<u>普通作物</u> （水稲）	3
<u>果樹</u> （カンキツ、ナシ、ブドウ、果樹全般）	11
<u>茶</u>	18
<u>野菜</u> （イチゴ、アスパラガス）	22
5. <u>病害虫診断状況</u>	27
6. <u>全国・佐賀県で多発生している病害虫及び新たに発生した病害虫</u>	28
7. <u>農薬の適正使用について</u>	29

今月のトピックス

病害の発生しやすい気象条件が続いていますので、適切な防除を実施してください。

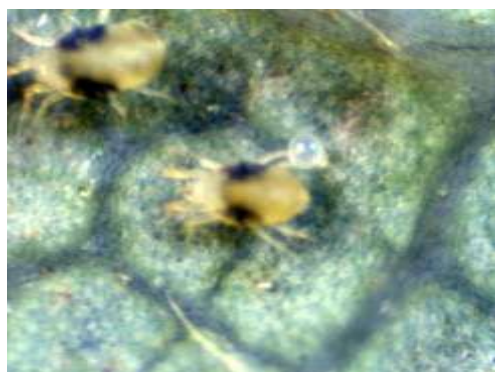
1. 7月の病害虫（予報で対象とした病害虫の中から抜粋）



水稲の葉いもち（矢印が病斑）



ナシの黒星病（矢印が病斑）



イチゴのハダニ類



チャの炭疽病

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部
〒840-2205 佐賀市川副町南里1088
TEL (0952)45-8153 FAX (0952)45-5085

2. 気象概要

【3ヶ月予報 平成27年6月24日 福岡管区気象台発表】

7月は、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。

7月の要素別確率(%)

要素	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	40	30	30
降水量	20	40	40

各病害虫の「予報の根拠」として、上記の向こう1か月の気象予報からみた病害虫の発生条件を必要に応じて記載しています。

上記の気象予報(確率予報)の内容について、本文中では便宜上、「気温並」、「降水量やや多」と簡略的に表現しています。

【参考】

要素	平年値 (佐賀市)	平年差(比)の平年並の範囲 (九州北部地方)
7月の平均気温	26.8℃	-0.4℃ ~ +0.4℃
7月の降水量	338.5mm	61% ~ 129%

3. 予報の内容・根拠等について

病害虫の発生量(平年比)

○予報の発生量は平年(佐賀県の過去10年間)及び参考として前年との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。

○留意点として、平年値との比較であるため、平年値が低い病害虫は、「平年より多い」場合でも見かけの発生は多くないことがあります。一方、発生が毎年目立ち、平年値が高い病害虫は、「平年並」や「平年よりやや少ない」場合でも見かけ上は多いと感ずることがあります。

予報の根拠

○予報の根拠には、巡回調査、防除員の調査、予察灯・トラップでの誘殺状況調査等に基づく発生状況、気象予報からみた病害虫の発生条件を必要に応じて記載しています。

○それぞれの条件は、少発生(－)、やや少発生(－～±)、並発生(±)、やや多発生(±～＋)、多発生(＋)として示し、＋－を総合的に判断して発生量を予想しています。

写真

○1ページ目には、予報で対象とした病害虫の写真を抜粋して掲載しています。

○3ページ目以降には、巡回調査時の各作物の生育状況の写真を掲載しています。

4. 7月の予報

普通作物

【概要】

作物名	病虫害名	発生量		病虫害防除のてびきの記載ページ	備考
		平年比	前年比		
早期水稻 (上場地域)	穂いもち	やや多	やや多	145～151	
	紋枯病	並	やや多	152～154	
	斑点米カメムシ類	並	並	175～178 195～197	
早植え水稻	葉いもち	やや多	やや少	145～151	平成27年4月28日付け病虫害対策資料第2号 参照
普通期水稻	葉いもち	多	多	145～151	平成27年4月28日付け病虫害対策資料第2号 参照
早植え・普通期水稻	セジロウンカ	並	並	165～169	
	トビイロウンカ	並	並	161～165	
	コブノメイガ	並	並	171～173	

【特記事項】

- 6月以降、降雨日が多く、日照の少ない状況が続いており、今後も曇りや雨の日が多いと予想される。いもち病や紋枯病等の病害の発生に好適な条件となっているため、圃場での発生状況を確認し、進展がみられた場合には早期に防除を実施する。
なお、各種病害の防除対策については、病虫害防除のてびき(p145-161)を参照する。
- 補植苗や畦畔に放置された残り苗に、いもち病の発生が一部でみられている。補植苗や畦畔に放置された残り苗は、葉いもちの伝染源になるので速やかに除去する。
また、葉いもちの進展型病斑がみられた場合は、早急に防除を行う。
- セジロウンカについては、早生・中生品種で1株当たり成虫が5頭以上、晩生品種(ヒヨクモチ等)で1株当たり成虫が10頭以上寄生していた場合は、飛来成虫あるいはその次世代ふ化幼虫を対象とした防除を行う。
- コブノメイガについては、早植え水稻や夢しずく等の品種では止葉を含む上位3葉への被害を防止するため、多飛来した場合や新世代成虫の密度が高い場合には、飛来あるいは発蛾最盛期の1週間後に防除を行う。
- スクミリンゴガイ発生圃場では浅水管理を徹底するとともに、発生が多い場合は薬剤防除を行う。
- 今後のウンカ類及びコブノメイガの飛来状況は、[佐賀県農業技術防除センターのホームページ](http://www.pref.saga.lg.jp/web/boujo.html) (http://www.pref.saga.lg.jp/web/boujo.html) を参考にする。

水稻（早期、上場地域）

（巡回調査日：6月18日）



巡回調査時の生育状況

1. 穂いもち

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1)巡回調査では、葉いもちの発生株率は0.7%（平年1.4%、前年1.3%）であり、平年及び前年並である。〈±〉

(2)BLASTAM（6月1日～25日）では、葉いもちの感染好適条件が6月25日に5地点、6月19日に3地点、6月12日、18日に2地点、感染準好適条件が6月8日に4地点、6月11日、19日に1地点で出現した（表1）。〈±～+〉

(3)気象予報では、やや多発生の条件となっている。〈±～+〉（降水量やや多：±～+）

3) 防除上注意すべき事項

(1)葉いもちの進展型病斑（写真1）がみられる圃場では、早急に防除を行う。

(2)葉いもちの発生が認められた圃場では、穂ばらみ期に穂いもちの防除を行う。さらに、葉いもちの発生が上位葉に見られるなど穂いもちの多発が予想される場合には、穂揃い期にも防除を行う。

(3)今後のBLASTAMによる感染好適条件の出現に注意し、圃場における発生状況を確認する（[佐賀県農業技術防除センターのホームページ](#)を参照）。

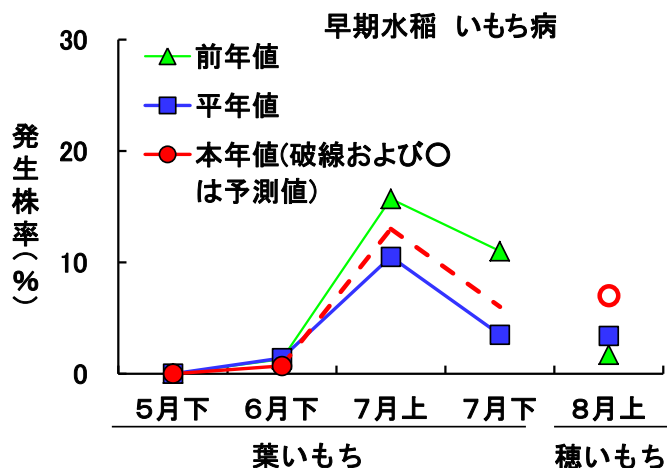


写真1 葉いもちの進展型病斑

円形ないし楕円形で、中央が灰白色、周縁が紫黒色となる。

表1 BLASTAMによる葉いもちの感染好適条件の出現状況

月日	佐賀県						福岡県			長崎県	
	唐津	伊万里	佐賀	嬉野	白石	川副	前原	太宰府	久留米	松浦	佐世保
6月1日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
3日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
4日	—	—	?	—	—	—	—	—	—	—	—
5日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
8日	—	—	4	1	4	4	—	—	—	—	—
9日	—	—	—	—	—	?	—	10	—	—	?
10日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
11日	—	—	—	4	—	—	—	—	—	—	—
12日	—	10	10	—	—	—	—	10	—	—	—
13日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
14日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
15日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
16日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
17日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
18日	10	—	—	—	10	—	10	10	10	4	—
19日	4	10	—	10	10	—	10	10	—	10	4
20日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
21日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
22日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
23日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
24日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
25日	10	10	10	—	10	10	10	10	10	10	—

- 注) 1 : 準好適条件 (前5日間の平均気温は20℃未満だが、湿潤が10時間以上)
 2 : 準好適条件 (前5日間の平均気温は25℃を越えているが、湿潤が10時間以上)
 3 : 準好適条件 (湿潤期間中の平均気温は15~25℃でないが、湿潤が10時間以上)
 4 : 準好適条件 (湿潤期間中の気温は比較的低い、湿潤が10時間以上)
 10 : 好適条件 (湿潤時間が長く気温も適当で、葉いもちの感染好適条件が出現した)
 — : 好適あるいは準好適条件の出現なし
 ? : 判定不能

ブラスタム (BLASTAM) 情報の使用上の注意

- BLASTAMは、気象条件(アメダスデータ)のみによって葉いもちの発生を予測するシステムである。しかしながら、実際の圃場における葉いもちの発生には、気象条件の外にも、菌の多少(密度)、イネ品種による抵抗性や体質、薬剤防除条件などが大きく関与している。したがって、BLASTAMは、あくまでも葉いもち発生予測の参考資料の一つとして扱う。
- BLASTAMは、葉いもちを対象としており、水稻の移植約20日後からの35日間(6月15日移植の場合、7月5日~8月10日)が適用期間とされている。ただし箱施薬が行われた圃場で、薬剤の効果が持続期間にはBLASTAMは適用できないので注意する。
- 葉いもちは、菌が進入してから発病するまで約1週間かかるため、BLASTAMで感染(準感染)好適条件が現れた場合、その約1週間後から初発あるいは病斑数が急激に増加することが予想される。
- BLASTAMでの感染(準感染)好適条件の出現回数が多い場合、葉いもちの発生面積が急増し、発病程度も激しくなることが予想される。

2. 紋枯病

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

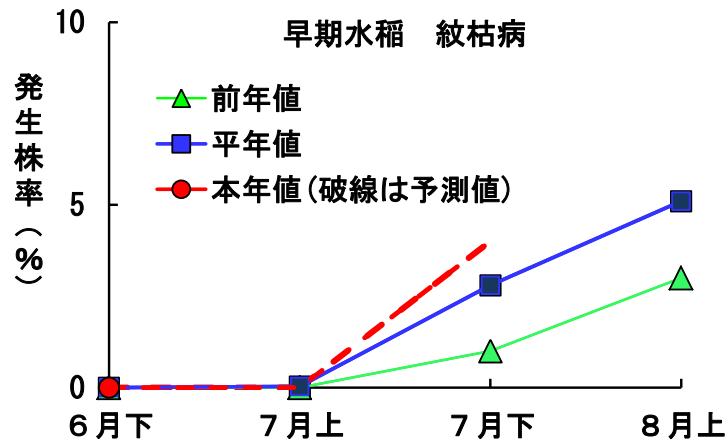
(1) 巡回調査では、発生を認めていない（発生株率：平年0%、前年0%）。〈±〉

(2) 気象予報では、やや多発生の条件となっている。〈±～+〉（降水量やや多：±～+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 早期水稻の出穂期～登熟期は気温が高い時期であり、本病が進展しやすいので、出穂の20～10日前（粒剤の場合は30～20日前）を中心に防除する。

(2) 薬剤は株元に十分かかるように散布する。



3. 斑点米カメムシ類 (クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ、シラホシカメムシ類、

アカスジカスミカメ、ミナミアオカメムシ等)

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 水田隣接のイネ科植物でのすくい取り調査（6月18～23日）による、カメムシ類の発生は平年並である（表2）。〈±〉

(2) 気象予報では、並発生の条件となっている。〈±〉

3) 防除上注意すべき事項

(1) 水田周辺の雑草地（畦畔、休耕地、空き地等）は斑点米カメムシ類の増殖・飛来源となるので、除草を徹底する。なお、水稻の出穂直前に除草すると水田内に斑点米カメムシ類を呼び込むことになるので、水稻の出穂10日前までに除草する。

(2) 斑点米カメムシ類は、山麓地帯や畦畔及び休耕地にイネ科雑草が多い地域で発生密度が高い傾向にある。各地域ですくい取り調査や見取り調査を行い、防除要否（穂揃い期～乳熟期に、圃場内で20回すくい取りで5頭以上いる場合は防除を実施）を判断する。

(3) 多発生時は穂揃い期とその7～10日後に防除を行う。少発生の場合は乳熟期（穂揃い期の約10日後）を中心に防除を行う。

表2 斑点米の原因となるカメムシ類のイネ科植物におけるすくい取り調査結果

20回すくい取り虫数(2015年6月18~23日)

調査地点	場所	草種	クモリカメムシ		ホソハラカメムシ		シホホカメムシ類		アサシカシカメ		ミナミアカメムシ
			成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫
佐賀市川副町	畦畔	イタリアンライグラス	0	0	1	0	0	0	28	65	0
佐賀市諸富町	道端	エノコログサ類	1	0	2	0	1	0	3	0	0
唐津市肥前町	空き地	エノコログサ類	0	0	0	0	0	0	3	0	0
唐津市原	空き地	イタリアンライグラス	1	0	0	0	0	0	8	2	0
伊万里市二里町	空き地	イタリアンライグラス	0	0	3	1	3	0	163	263	0
武雄市橘町	空き地	イタリアンライグラス	0	0	2	0	0	0	1	0	0
鹿島市常広	道端	エノコログサ類	0	0	1	0	0	0	48	0	0
嬉野市塩田町	空き地	イタリアンライグラス	0	0	0	0	0	0	13	0	0
みやき町白壁	空き地	イタリアンライグラス	0	0	1	0	0	0	28	65	0
吉野ヶ里町箱川	道端	エノコログサ類	0	0	0	0	1	0	0	0	0
上峰町江迎	空き地	エノコログサ類	13	0	0	0	1	0	7	0	0
白石町福田	道端	エノコログサ類	0	0	0	0	0	0	8	0	0
白石町福富	空き地	エノコログサ類	8	0	0	0	0	0	18	1	0
平均(本年)			1.8	0.0	0.8	0.1	0.5	0.0	25.2	30.5	0.0
前年			3.6	0.0	3.2	0.0	1.7	0.0	34.1	30.6	0.1
平年(過去10年の平均)			3.9	0.1	1.7	0.5	0.7	0.1	35.6	17.9	0.1

水稻(山間早植え)

(巡回調査日: 6月23日)



巡回調査時の生育状況

1. 葉いもち

1) 予報の内容

発生量: 平年よりやや多い(前年よりやや少ない)

2) 予報の根拠

(1)巡回調査では、葉いもちの発生を認めていない。(発生株率: 平年0.0%、前年0.3%)
(±)

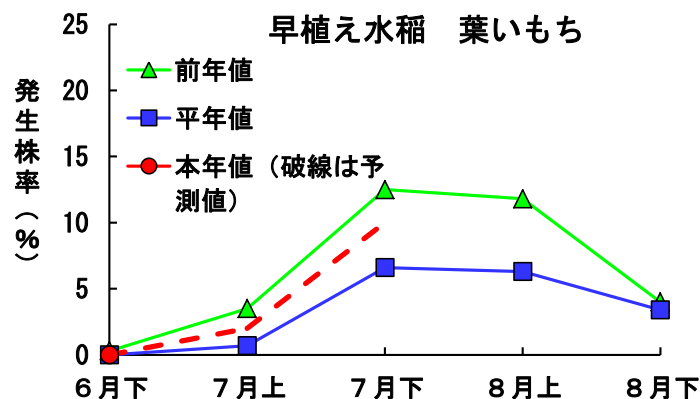
(2)BLASTAM(6月11日~25日)【5月22日移植の場合: 適用期間6月11日~7月15日】では、葉いもちの感染好適条件が6月25日に5地点、6月19日に3地点、6月12日、18日に2地点、感染準好適条件が6月11日、19日に1地点で出現した(表1)。(+)

(3)気象予報では、やや多発生の条件となっている。(±~+) (降水量やや多: ±~+)

3) 防除上注意すべき事項

(1)葉いもちの進展型病斑(早期水稻の項の写真1)が確認された場合は、早急に本田防除を実施する。

(2)今後のBLASTAMによる感染好適条件の出現に注意する([佐賀県農業技術防除センターのホームページ](#)を参照)。



水稻（普通期水稻）

（巡回調査日：6月18～23日）



1. 葉いもち

1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年より多い）

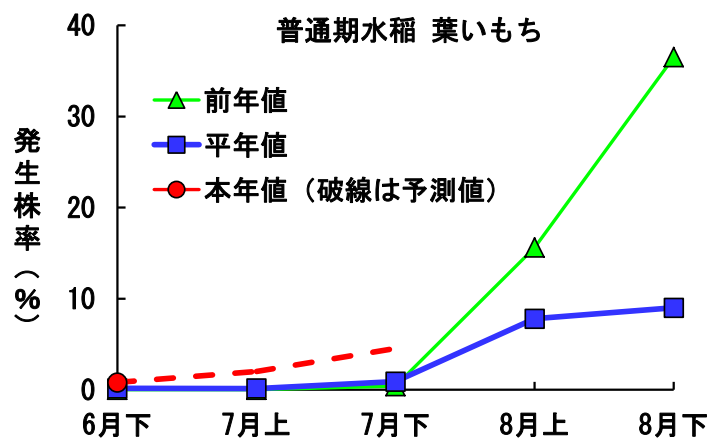
2) 予報の根拠

- (1)巡回調査では、葉いもちの発生株率は0.8%（平年0.2%、前年0%）であり、平年及び前年より多い。〈+〉
- (2)一部圃場では、補植苗や畦畔に放置された残り苗に、いもち病の発生を認めている。〈±～+〉
- (3)気象予報では、やや多発生の条件となっている。〈±～+〉（降水量やや多：±～+）

3) 防除上注意すべき事項

- (1)補植苗や畦畔に放置された残り苗は、葉いもちの伝染源になるので速やかに除去する。
- (2)葉いもちの進展型病斑（早期水稻の項の写真1）が確認された場合は、早急に本田防除を実施する。
- (3)今後のBLASTAMによる感染好適条件の出現に注意し、圃場における発生状況を確認する（[佐賀県農業技術防除センターのホームページ](#)を参照）。

巡回調査時の生育状況



水稻（早植え、普通期）

（巡回調査日：6月18～23日）

1. セジロウカ

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

- (1)早植え水稻の巡回調査（6月23日調査）では、寄生株率が3.8%（平年1.2%、前年2.5%）であり、平年より多く前年よりやや多い。〈+〉
- (2)普通期水稻の巡回調査（6月18～23日調査）では、寄生株率が0.3%（平年0.4%、前年0.2%）であり、平年及び前年並である。〈±〉
- (3)これまでの飛来量は、平年よりやや少なく推移している（表3）。〈-～±〉
- (4)今後、梅雨明け頃にかけてまとまった飛来が予想される。〈±〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1)今後の飛来状況に注意する（[佐賀県農業技術防除センターのホームページ](#)を参照）。
- (2)早生・中生品種で1株当たり成虫が5頭以上、晩生品種（ヒヨクモチ等）で1株当たり成虫が10頭以上寄生していた場合は、飛来成虫あるいはその次世代ふ化幼虫を対象とした防除を行う。

2. トビイロウンカ

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 早植え水稻(6月23日調査)及び普通期水稻(6月18～23日調査)の巡回調査では、寄生を認めていない(寄生株率：【早植え】平年0.1%、前年0%、【普通期】平年0.0%、前年0%)。〈±〉

(2) これまでのところ、本県での飛来は確認されていない(表3)。〈-～±〉

(3) 今後、梅雨明け頃にかけてまとまった飛来が予想される。〈±〉

3) 防除上注意すべき事項

今後の飛来状況に注意する([佐賀県農業技術防除センターのホームページ](#)を参照)。

3. コブノメイガ

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 早植え水稻(6月23日調査)及び普通期水稻(6月18～23日調査)の巡回調査では、被害葉の発生を認めていない(被害株率：【早植え】平年0.0%、前年0%、【普通期】平年0.0%、前年0%)。〈±〉

(2) これまでの飛来量は、平年並に推移している(表3)。〈±〉

(3) 今後、梅雨明け頃にかけてまとまった飛来が予想される。〈±〉

3) 防除上注意すべき事項

(1) 今後の飛来状況に注意する([佐賀県農業技術センターのホームページ](#)を参照)。

(2) 早植え水稻や夢しずく等の品種では止葉を含む上位3葉への被害を防止するため、多飛来した場合や新世代成虫の密度が高い場合には、飛来あるいは発蛾最盛期の1週間後に防除を行う。

表3 ウンカ類及びコブノメイガの飛来状況（平成27年）

月	日	トビイロウンカ			セジロウンカ			コブノメイガ					長崎県		
		佐賀県			佐賀県			佐賀県					長崎県		
		川副町 ネット トラップ	川副町 ライト トラップ	嬉野町 ライト トラップ	川副町 ネット トラップ	川副町 ライト トラップ	嬉野町 ライト トラップ	川副町 フェロモン トラップ	川副町 粘着トラップ (20W蛍 光灯)	千代田町 粘着トラップ (20W蛍 光灯)	伊万里市 粘着トラップ (20W蛍 光灯)	白石町 粘着トラップ (20W蛍 光灯)	塩田町 粘着トラップ (20W蛍 光灯)	諫早市 フェロモン トラップ A	諫早市 フェロモン トラップ B
6月	1日	0	0	欠測	0	0	欠測	—	0					0	—
	2日	0	0	欠測	0	0	欠測	—	0	0	0	0	0	0	—
	3日	0	0	欠測	3	0	欠測	—	0					0	—
	4日	0	0	欠測	0	0	欠測	—	0					1	—
	5日	0	0	欠測	2	0	欠測	—	0					0	—
	6日	0	0	欠測	0	0	欠測	—	0	0	0	0	0	0	—
	7日	0	0	欠測	1	0	欠測	—	0					1	—
	8日	0	0	0	0	0	1	—	0					1	—
	9日	0	0	0	0	0	0	—	0	0	0	0	0	0	—
	10日	0	0	0	0	0	8	0	0					0	—
	11日	0	0	0	1	0	1	0	0					0	—
	12日	0	0	0	16	0	0	0	0	0	0	0	0	5	—
	13日	0	0	0	0	0	10	0	0					3	—
	14日	0	0	0	0	0	0	0	0					6	2
	15日	0	0	0	0	0	1	0	0					7	0
	16日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0
	17日	0	0	0	0	0	0	0	1					1	0
	18日	0	0	0	0	0	1	0	0					1	0
	19日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
	20日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
	21日	0	0	0	0	0	0	0	0					2	1
	22日							0							
6月1日～21 日の総誘数 (本年)		0	0	0	23	0	22	0	1	0	0	0	0	37	3
6月1日～25 日の総誘数 (平年)		0.6	1.8	251.8	124.2	63.8	1225.2	—	3.2	—	—	—	—	—	—

注1) ウンカ類：川副町ネットトラップと予察灯は農業試験研究センター調査。嬉野予察灯は農業技術防除センター調査。
 平年値は川副町ネットトラップと予察灯は過去35年、嬉野町予察灯は過去28年の平均値。嬉野町予察灯は、飛来数が
 極端に多かった平成3年を除外した数値。

注2) コブノメイガ：川副町は農業試験研究センターで調査。千代田町、白石町、伊万里市、塩田町は各調査員が調査。
 平年値の川副町ライトトラップは過去28年の平均値。川副町のフェロモントラップは、農業技術防除センターが調査。
 長崎県のデータは、長崎県病害虫防除所提供。

果 樹

【概要】

作物名	病虫害名	発生量		病虫害防除 のてびきの 記載ページ	備 考
		平年比	前年比		
カンキツ	そうか病	並	並	230～232	
	かいよう病	並	並	234～237	
	黒点病	やや多	多	232～234	
	ミカンハダニ	やや多	やや多	259～263	
	チャノキアザミウマ	並	並	252～259	
ナシ	黒星病	やや多	やや多	298～303	平成27年4月30日付け病害 虫対策資料第4号参照
	ナシメシクイ	並	並	314～317	
	ハダニ類	並	並	320～323	
ブドウ	黒とう病	多	多	340～342	
	べと病	多	多	344～346	
	褐斑病	やや多	やや多	347～348	
	チャノキアザミウマ	並	並	354～355	
果樹全般	カメムシ類	並	並	カンキツ：266～269 ナシ：318～319 ブドウ：360～361	平成27年5月22日付け病害 虫対策資料第5号参照

【特記事項】

【果樹全般】

- 6月以降、降雨日が多く、日照が少ない状況が続いており、今後も曇りや雨の日は多いと予想される、各種病害の発生に好適な条件となっているため、防除を徹底する。
- カメムシ類の飛来が県内一部のカンキツ、ナシなどの果樹園で確認されている。飛来状況は地域や園地により異なるため、園内外をこまめに見回り早期発見・早期防除に努める（[平成27年5月22日付け病虫害対策資料第5号参照](#)）。

【カンキツ】

- カンキツ黒点病は、梅雨期に伝染しやすいため薬剤防除を徹底する。マンゼブ水和剤散布後の次回散布は、積算降雨量が200mm～250mm（6月にマシン油乳剤を加用した場合は300～400mm）に達した時点を目安とする。ただし、同雨量に達しない場合でも、散布後1ヶ月を目途に次回の散布を行う。

【ナシ】

1. 黒星病の発病葉や発病果実は他の果実や次年度の伝染源となるため除去し、園外で処分する。また、6月下旬～7月上旬は主要な伝染期であるため、DMI剤による防除を必ず実施する（平成27年4月30日付け病害虫対策資料第4号参照）。
2. ナシヒメシンクイについては、収穫期まで薬剤防除を徹底する。

【ブドウ】

1. ブドウべと病の罹病葉は、二次伝染源となるので必ず除去し、園外に持ち出して適切に処分する。また、降雨によって発病が進展するので、降雨前の予防散布を行う。

カンキツ

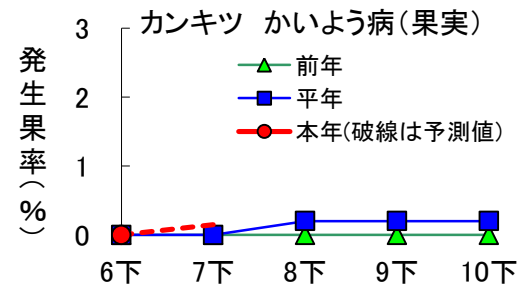
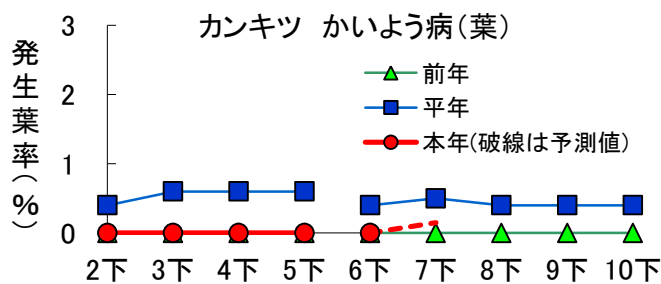
(巡回調査日：6月16～19日)



巡回調査時の生育状況

1. かいよう病

- 1) 予報の内容
発生量：**平年並**（前年並）
- 2) 予報の根拠
 - (1)巡回調査では、温州みかんでの発生を認めていない（発生葉率：平年0.4%、前年0%、発生果率：平年0%、前年0%）。〈-～±〉
 - (2)気象予報では、やや多発生の条件となっている。〈±～+〉（降水量やや多：±～+）
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1)本病が前年に発生した園や、風当たりが強い園、罹病性品種（ネーブル、いよかん、はるみ等）が植栽された園、新梢の伸長が遅くまで続く園（幼木園、高接園、隔年交互結実栽培園等）では、無機銅水和剤（クレフノン200倍加用）による防除を行う。散布間隔は20～25日とする。
 - (2)銅水和剤（クレフノン200倍加用）にジマンダイセン水和剤を加用すると銅水和剤の防除効果が低下するので控える。
 - (3)発病した枝や葉は今後の伝染源となるので除去する。ただし、強剪定すると枝が遅くまで伸長し、本病にかかりやすい期間が長くなるので行わない。
 - (4)台風の襲来等強風雨が予想される場合は、襲来前までに必ず防除を行う。



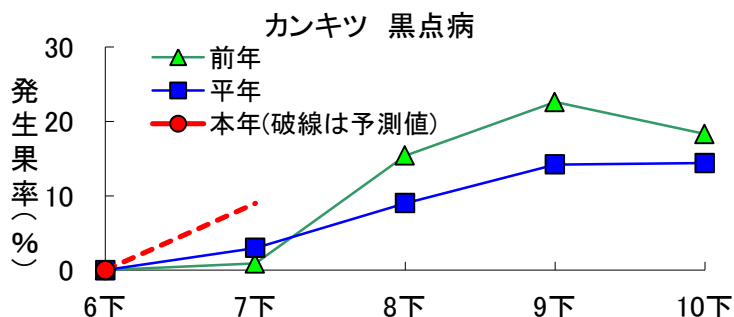
注：5月下旬までは旧葉、6月以降は新葉を調査

2. 黒点病

- 1) 予報の内容
発生量：**平年よりやや多い**（前年より多い）
- 2) 予報の根拠
 - (1)巡回調査では、温州みかん果実での発生を認めていない。（発生果率：平年0%、前年0%）〈±〉
 - (2)6月以降、降雨日が多く、日照が少ない状況が続いており、本病の感染に好適な条件で推移した。〈±～+〉
 - (3)気象予報では、やや多発生の条件となっている。〈±～+〉（降水量やや多：±～+）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) これまで本病の感染に好適な条件で推移し、感染している恐れがあるため、薬剤防除を徹底する。
- (2) 梅雨期は果実への主要感染期にあたるので防除を徹底する。マンゼブ水和剤散布後の積算降雨量が200mm～250mm（6月にマシン油乳剤を加用した場合は300～400mm）に達した時点を次回の散布の目安とする。
- (3) 剪定等で切り落とした枝は、圃場外へ持ち出して適切に処分する。
- (4) 園内湿度を下げるために防風樹の剪定等を行い、通風をよくする。



3. ミカンハダニ

1) 予報の内容

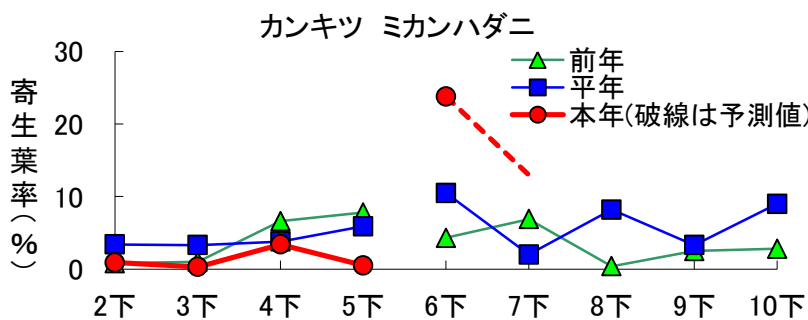
発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

- (1) 巡回調査では、寄生葉率は23.8%（平年10.5%、前年4.3%）であり、平年及び前年より多い。〈+〉
- (2) 気象予報では、やや少発生の条件となっている。〈-～±〉（降水量やや多：-～±）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 殺ダニ剤に対する抵抗性の発達を避けるため、同じ種類の薬剤は年1回の使用とする。また、前年使用した殺ダニ剤は使用しない。
- (2) 低密度時（寄生葉率30%未満または1葉当たりの雌成虫の数が0.5～1頭）に防除を行う。
- (3) 7月以降にマシン油乳剤を散布すると、糖度の低下及び腐敗果の増加を招くので使用しない。



注：5月下旬までは旧葉、6月以降は新葉を調査

4. チャノキイロアザミウマ

1) 予報の内容

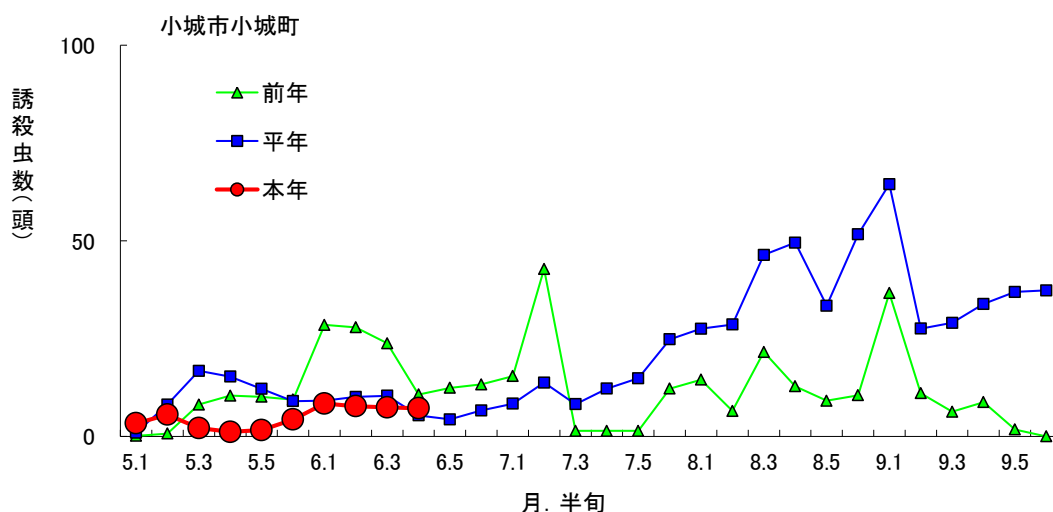
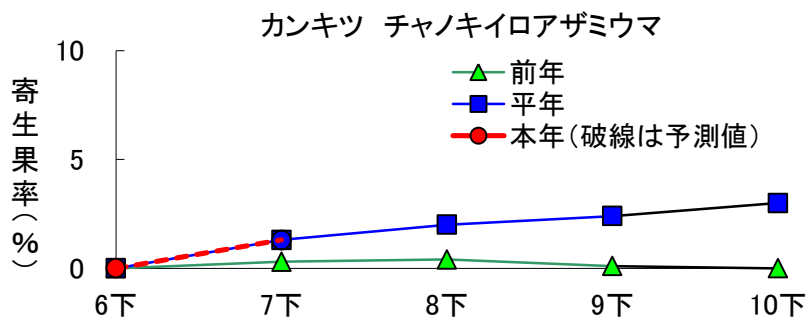
発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

- (1) 巡回調査では、温州みかんでの発生を認めていない（寄生果率：平年0%、前年0%）。〈±〉
- (2) 小城市小城町に設置した黄色粘着トラップによる6月第1～4半旬の誘殺虫数は、平年並で前年より少なく推移している。〈±〉
- (3) 気象予報では、やや少発生の条件となっている。〈-～±〉（降水量やや多：-～±）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生が多い地域では、7月中下旬に薬剤防除を徹底する。
- (2) イヌマキ、サンゴジュ等は発生源となるので、防風樹として植栽している園では注意する。



黄色粘着トラップによるチャノキイロアザミウマの誘殺虫数の推移 (果樹試験場調査)

ナシ

(巡回調査日: 6月16日)

1. 黒星病

1) 予報の内容

発生量: 平年よりやや多い (前年よりやや多い)

2) 予報の根拠

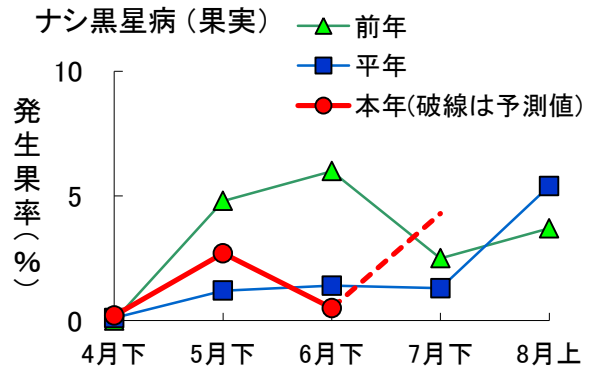
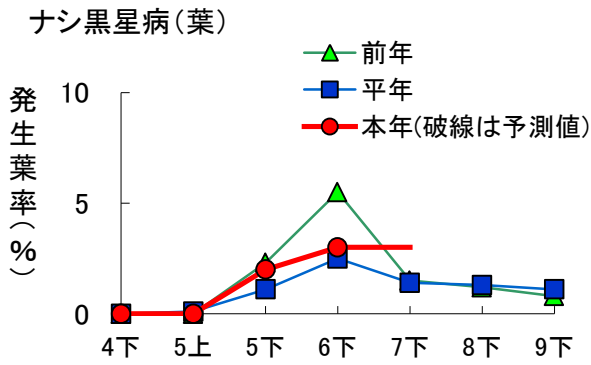
- (1) 巡回調査では、発生葉率は3.0% (平年2.5%、前年5.5%) であり、平年並で前年より少ない。〈±〉
- (2) 巡回調査では、発生果率は0.5% (平年1.4%、前年6.0%) であり、平年並で前年より少ない。〈±〉
- (3) 巡回調査地点以外で、本病が多発生している圃場が一部みられている〈±~+〉。
- (4) 気象予報では、やや多発生の条件となっている。〈±~+〉 (降水量やや多: ±~+)

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 6月下旬~7月上旬は果実の主要感染期となるので、DMI剤を十分量散布し防除を徹底する。
- (2) 黒星病の発病葉や発病果実は除去し、園外で処分する。
- (3) スピードスプレーヤーで薬剤散布する場合は、全列走行を基本とし、薬液が到達しにくい園周縁部等は手散布を実施するなどして、丁寧に散布する。
- (4) その他詳細は、[平成27年4月30日付け病害虫対策資料第4号](#)を参照する。



巡回調査時の生育状況



2. ナシヒメシンクイ

1) 予報の内容

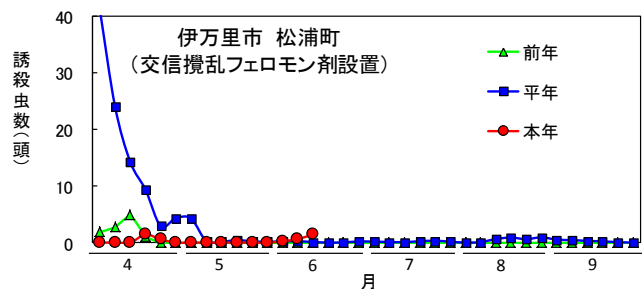
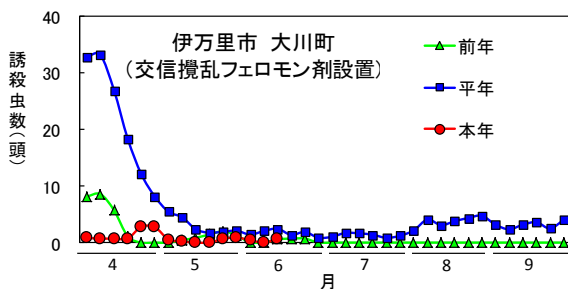
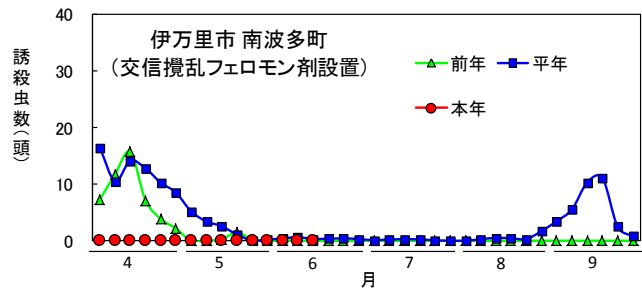
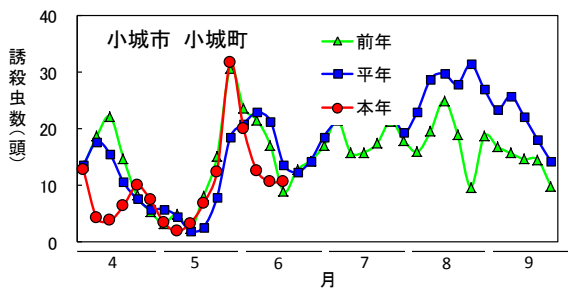
発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

- (1) フェロモントラップでの6月上中旬の誘殺数は、平年及び前年並で推移している。〈±〉
- (2) 気象予報では、並発生の条件となっている。〈±〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 7月以降は、各世代が混在するため、7～10日毎に薬剤散布を行う。
- (2) 交信攪乱フェロモン資材設置園においても、10～14日間隔で薬剤散布を行う。



フェロモントラップによるナシヒメシンクイの誘殺推移
 (小城市は果樹試験場、伊万里市は西松浦農業改良普及センター調査)

ブドウ

(巡回調査日：6月16日～19日)



巡回調査時の生育状況

1. 黒とう病

1) 予報の内容

発生量：**平年より多い**（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1)巡回調査では、発生葉率0.3%（平年0%、前年0%）であり、平年及び前年より多い。〈+〉

(2)巡回調査地点以外で、本病が多発生している圃場が一部みられている。〈±～+〉

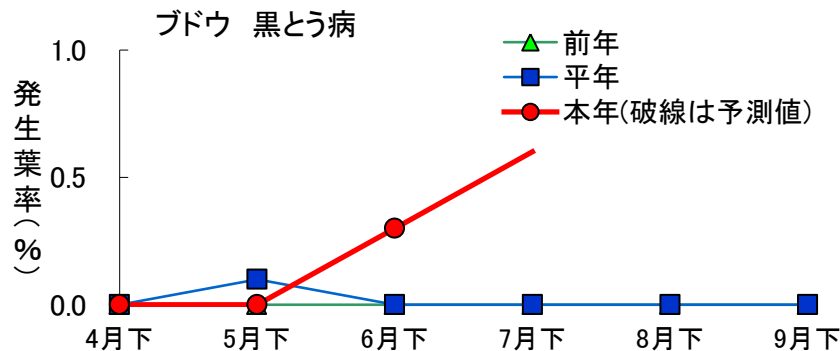
(3)6月以降、降雨日が多く、日照が少ない状況が続いており、本病の感染に好適な条件で推移した。〈±～+〉

(4)気象予報では、やや多発生の条件となっている。〈±～+〉（降水量やや多：±～+）

3) 防除上注意すべき事項

(1)発病した枝の剪除と巻きひげの処分を徹底する。

(2)枝葉の徒長や晩期伸長にならないように肥培管理に注意する。



2. ベと病

1) 予報の内容

発生量：**平年より多い**（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1)巡回調査では、発生葉率0.2%（平年0.1%、前年0%）であり、平年並で前年よりやや多い。〈±〉

(2)巡回調査地点以外で、本病が多発生している圃場が一部みられている。〈±～+〉

(3)6月以降、降雨日が多く、日照が少ない状況が続いており、本病の感染に好適な条件で推移した。〈±～+〉

(4)気象予報では、やや多発生の条件となっている。〈±～+〉（降水量やや多：±～+）

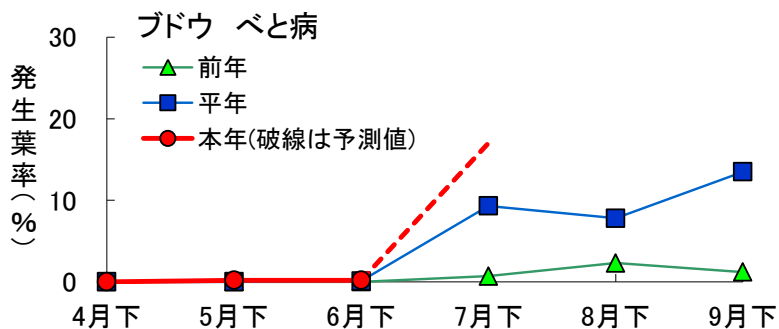
3) 防除上注意すべき事項

(1)降雨によって発病が進展するので、降雨前の予防散布を行う。

(2)罹病葉は、二次伝染源となるので必ず除去し、園外に持ち出して適切に処分する。

(3)防除効果を高めるために、棚面の上からも散布するよう心懸ける。

(4)ストロビルリン系殺菌剤（アミスターフロアブル、ストロビードライフロアブル等）については、耐性菌が発生しているため、本病の防除には使用しない。



3. 褐斑病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）

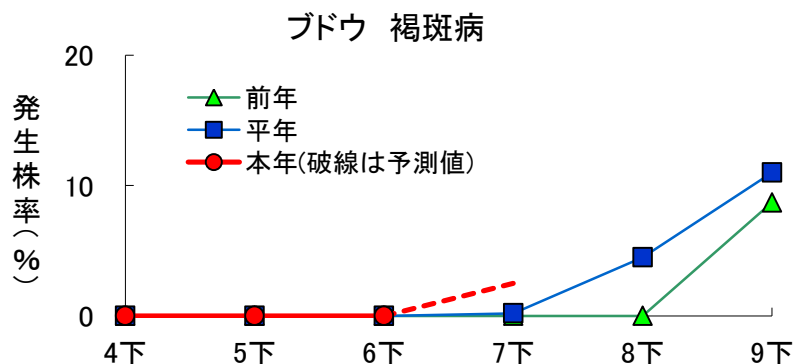
2) 予報の根拠

(1) 巡回調査では、発生を認めていない（発生葉率：平年0%、前年0%）。〈±〉

(2) 気象予報では、やや多発生の条件となっている。〈±～+〉（降水量やや多：±～+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 本病原菌は気孔から侵入するので、葉裏に薬剤が十分にかかるよう丁寧に散布する。



果樹全般

1. カメムシ類

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 予察灯（県内3地点）による平均誘殺数は、平年及び前年並で推移している（図1）。〈±〉

(2) フェロモントラップ（県内6地点）による平均誘殺数は、平年及び前年並で推移している（図2）。〈±〉

3) 防除上注意すべき事項

(1) こまめに園内を見て回り、確認した場合は早急に防除を行う。

(2) 果樹カメムシ類は樹高の高い樹木に一旦飛来して、その後果樹園に飛来する傾向があるので、防風樹等は必要以上に高くなならないように刈り込む。

(3) 合成ピレスロイド剤等を散布するとハダニ類やカイガラムシ類の異常増殖（リサージェンス）を生じる場合があるので、これら害虫の防除対策も実施する。

(4) その他詳細については、[平成27年5月22日付け病害虫対策資料第5号](#)を参照する。

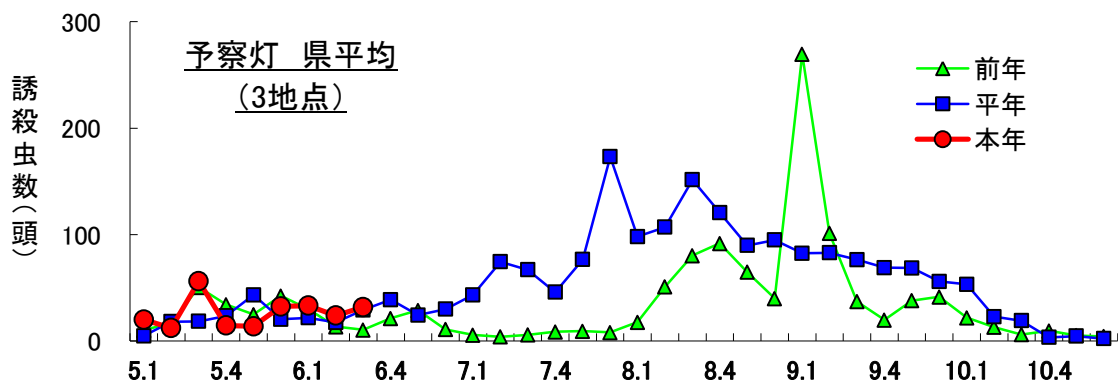


図1 予察灯（佐賀市、小城市、太良町）による果樹カメムシ類の平均誘殺数の推移

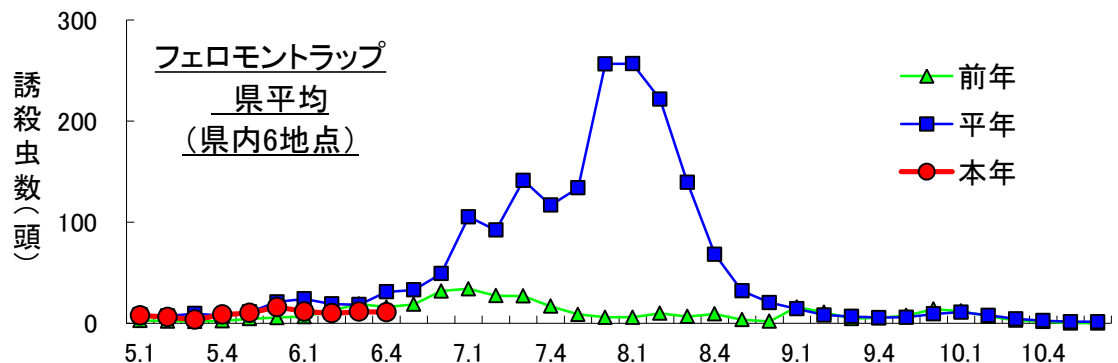


図2 フェロモントラップ（小城市、伊万里市、鹿島市、唐津市浜玉町、唐津市鎮西町、基山町）による果樹カメムシ類の平均誘殺数の推移

茶

【概要】

作物名	病害虫名	発生量		病害虫防除 のてびきの 記載ページ	備考
		平年比	前年比		
茶	炭疽病	多	多	411～412	
	輪斑病	多	並	412～413	
	カンザワハダニ	並	並	418～419	平成27年5月28日 付け病害虫対策 資料第6号参照
	クワシロカイガラムシ	並	少	427～428	
	チャノミドリヒメヨコバイ	やや少	並	423～424	
	チャノキイロアザミウマ	やや少	並	425～426	
	チャノコカクモンハマキ	やや少	並	421～423	
	チャノホソガ	並	やや多	420～421	

【特記事項】

1. 6月以降、降雨日が多く日照が少ない状況が続いており、今後も曇りや雨の日が多いと予想される。炭疽病、輪斑病（新梢枯死症）、もち病など各種病害の発生に好適な条件となっているため、発生状況を確認し、進展がみられた場合には早期に防除を実施する。各病害の防除対策については[病害虫防除のてびき（P411～417）](#)を参照する。
2. クワシロカイガラムシの防除適期である第二世代幼虫ふ化最盛期は7月中～下旬である。園内の発生状況を観察して、適期に防除を行う。
3. 県内において、チャトゲコナジラミの発生が確認されている。既発生地においては防除を徹底するとともに、未発生地において疑わしい葉が見つかった場合には、すぐに関係機関へ連絡する。防除対策は、ホームページ掲載の「[チャトゲコナジラミの防除対策](#)」を参照する。

茶

（巡回調査：6月16～19日）

1. 炭疽病

1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

- (1) 巡回調査では、1 m²あたりの発病葉数は4.6枚（平年0.1枚、前年0枚）であり、平年及び前年より多い。〈+〉
- (2) 気象予報ではやや多発生の条件となっている。〈±～+〉（降水量やや多：±～+）

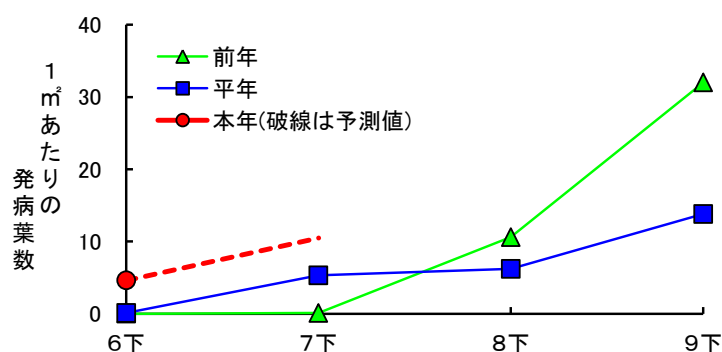
3) 防除上注意すべき事項

- (1) 本病は雨滴により新芽に伝染するため、開葉初期の予防散布を徹底する。
- (2) 発生園は整枝により罹病葉を除去し、日当たりおよび通風をよくする。



巡回調査時の生育状況

チャ 炭疽病



2. 輪斑病

1) 予報の内容

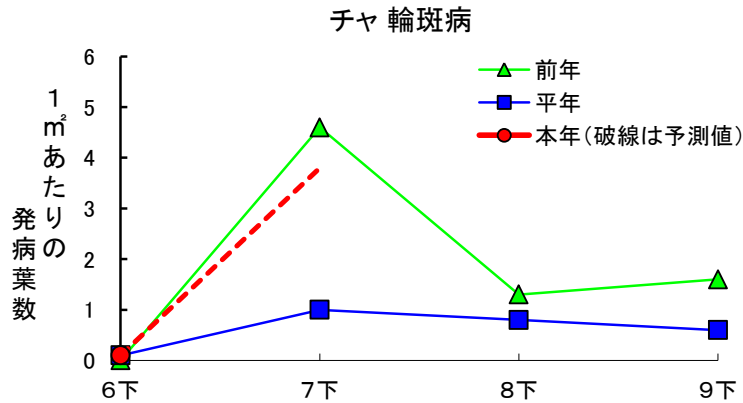
発生量：平年より多い（前年並）

2) 予報の根拠

- (1) 巡回調査では、1 m²あたりの発病葉数は0.1枚（平年0.1枚、前年0枚）であり、平年並で前年よりやや多い。〈±〉
- (2) 気象予報ではやや多発生の条件となっている。〈±～+〉（降水量やや多：±～+）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 整枝時の傷口から感染するため、摘採後直ちに防除を行う。
- (2) 二番茶摘採後に多発した場合は、剪枝により病斑部を除去する。



3. クワシロカイガラムシ

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年より少ない）

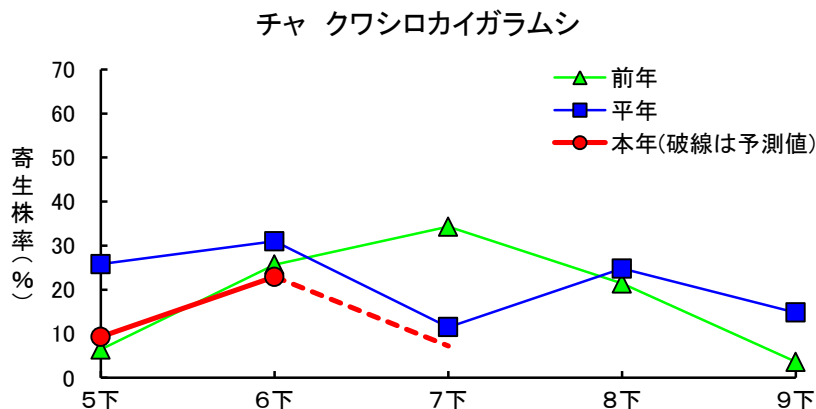
2) 予報の根拠

(1)巡回調査では、寄生株率は22.9%（平年31.0%、前年25.7%）で、平年よりやや少なく前年並である。〈-~±〉

(2)気象予報ではやや少発生条件となっている。〈-~±〉（降水量やや多：-~±）

3) 防除上注意すべき事項

(1)防除適期である幼虫ふ化最盛期は7月中~下旬である。園内を観察して、適期に防除を行う。



4. チャノミドリヒメヨコバイ

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない（前年並）

2) 予報の根拠

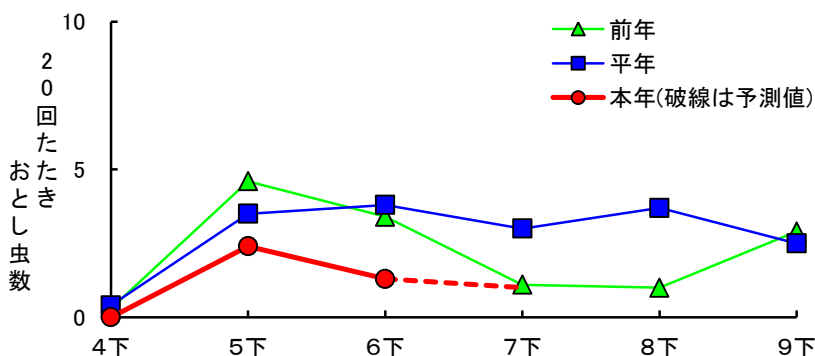
(1)巡回調査時の、20回たたき落とし虫数は1.3頭（平年3.8頭、前年3.4頭）であり、平年及び前年よりやや少ない。〈-~±〉

(2)気象予報では並発生条件となっている。〈±〉

3) 防除上注意すべき事項

(1)幼虫は葉裏に生息することが多いため、葉裏へ薬剤が十分にかかるように丁寧に散布する。

チャ チャノミドリヒメヨコバイ



5. チャノキイロアザミウマ

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない（前年並）

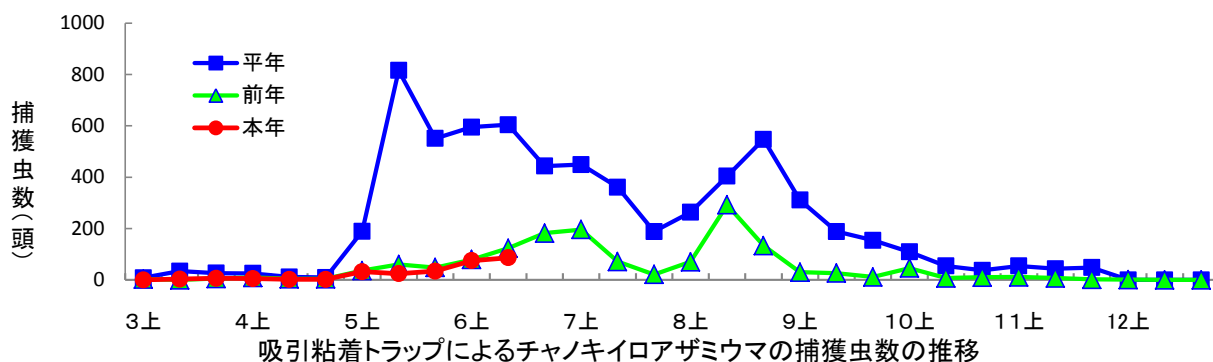
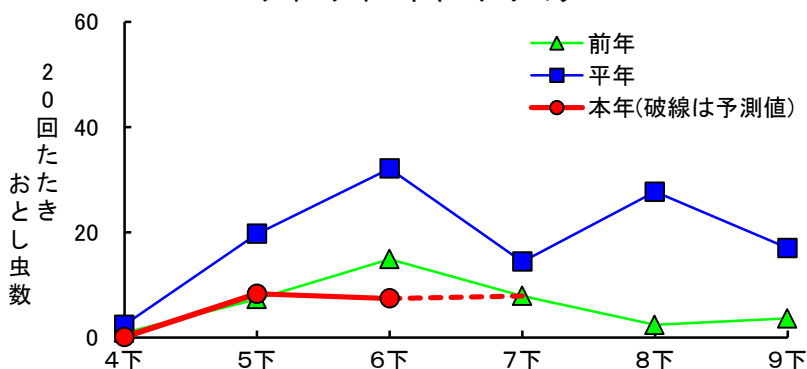
2) 予報の根拠

- (1) 巡回調査時の、20回たたき落とし虫数は7.4頭（平年32.1頭、前年14.9頭）であり、平年よりやや少なく前年並である。〈ー～±〉
- (2) 吸引粘着トラップによる誘殺虫数は、平年より少なく前年並で推移している。〈ー〉
- (3) 気象予報ではやや少発生の条件となっている。〈ー～±〉（降水量やや多：ー～±）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 幼虫は葉裏に生息することが多いので、葉裏にも薬液が十分にかかるように丁寧に散布する。
- (2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。

チャ チャノキイロアザミウマ



吸引粘着トラップによるチャノキイロアザミウマの捕獲虫数の推移
(嬉野市嬉野町、茶業試験場調査)

野 菜

【概要】

作物名	病害虫名	発 生 量		病害虫防除の てびき記載ペ ージ	備考
		平年比	前年比		
イチゴ (育苗圃)	うどんこ病	並	やや少	188～191	平成27年4月30日付け病 害虫対策資料第3号参照
	苗立枯症	やや多	やや多	193～198	平成27年4月30日付け病 害虫対策資料第3号参照
	ハダニ類	多	多	199～200	平成27年5月28日付け病 害虫対策資料第7号参照
	アブラムシ類	並	並	204～205	
アスパラ ガス	茎枯病	やや多	やや多	298～299	
	斑点病	やや多	並	299	
	褐斑病	やや多	多	299～300	
	アザミウマ類	並	並	301～302	
	ハダニ類	並	少	302	
	アブラムシ類	並	並	303	

【特記事項】

【野菜全般】

- 6月以降、降雨日が多く日照が少ない状況が続いており、今後も曇りや雨の日が多いと予想される。各種病害の発生に好適な条件となっているため、発生状況を確認し、進展がみられたら早期に防除を実施する。また、太陽熱土壤消毒を行う圃場においては、十分な消毒効果が得られるよう、時間に余裕を持って早めに土壤消毒を行う。

【イチゴ】

- うどんこ病及びハダニ類の本圃での被害を抑えるため、育苗期の防除を徹底する（[平成27年4月30日付け病害虫対策資料第3号](#)および[平成27年5月28日付け病害虫対策資料第7号](#)参照）。
- 立枯性病害（炭疽病、疫病、萎黄病）については、ビニル雨よけや水滴の小さい灌水装置を利用して、水はねによる菌の飛散を防ぐ。また、炭疽病については、定期的な薬剤防除を徹底する（[平成27年4月30日付け病害虫対策資料第3号](#)参照）。

【アスパラガス】

- アスパラガスでは、茎枯病の発生を防ぐために、強い雨風の際はサイドビニルを下ろす。

【施設果菜類（ナス、キュウリ、トマト等）共通】

- 栽培終了後はアザミウマ類やコナジラミ類が圃場外へ飛び出さないよう、ハウス密閉処理を行う。
- 本圃での土壤病害虫の発生を防ぐため、栽培終了後は速やかに太陽熱土壤消毒または薬剤による土壤消毒を実施する。

イチゴ（育苗圃）

（巡回調査：6月18日～23日）



巡回調査時の生育状況

1. うどんこ病

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年よりやや少ない）

2) 予報の根拠

(1)巡回調査では、発生株率は29.3%（平年48.3%、前年68.7%）であり、平年よりやや少なく前年より少ない。〈-～±〉

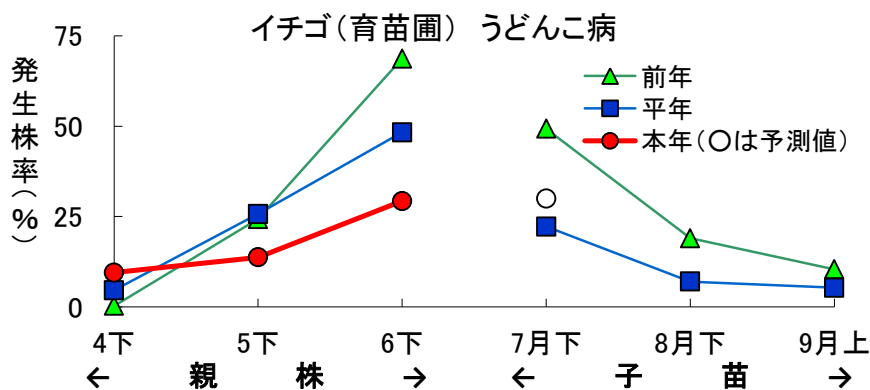
(2)気象予報では、やや多発生の条件となっている〈±～+〉。（降水量やや多：±～+）

3) 防除上注意すべき事項

(1)葉裏やランナー先端の子苗にも薬液が十分かかるように散布する。

(2)薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。

(3)詳細な防除対策は[平成27年4月30日付け病害虫対策資料第3号](#)を参照する。



2. 苗立枯症（炭疽病・疫病）

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1)巡回調査では、発生を認めていない（発生株率：平年0%、前年0.2%）。〈±〉

(2)気象予報では、やや多発生の条件となっている〈±～+〉。（降水量やや多：±～+）

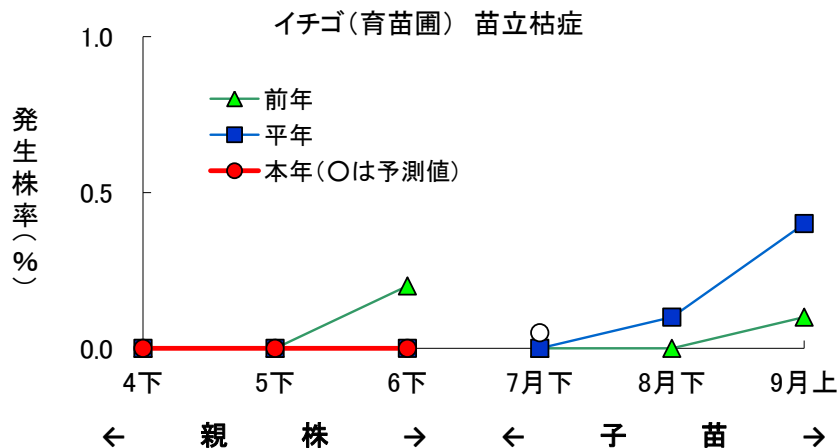
3) 防除上注意すべき事項

(1)降雨が多い梅雨期は病原菌の飛散、感染に好適な時期であるため、防除を徹底する。

(2)罹病株はすみやかに圃場外へ持ち出し、適切に処分する。

(3)薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。

(4)詳細な防除対策は[平成27年4月30日付け病害虫対策資料第3号](#)を参照する。



3. ハダニ類

1) 予報の内容

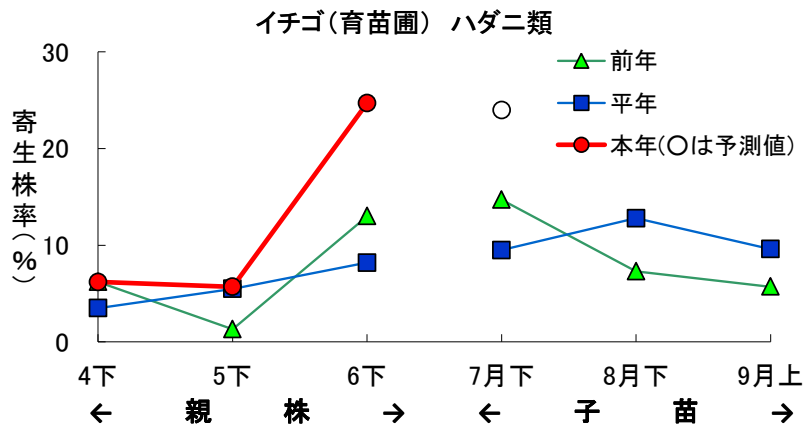
発生量：平年より多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

- (1) 巡回調査では、寄生株率は24.7%（平年8.2%、前年13.0%）であり、平年より多く前年よりやや多い。〈+〉
- (2) 気象予報では、やや少発生条件となっている〈-〜±〉。（降水量やや多：-〜±）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 本種は薬液のかかりにくい葉裏や下位葉に寄生していることが多いので、薬液が十分かかるよう散布する。
- (2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。
- (3) 詳細な防除対策は[平成27年5月28日付け病害虫対策資料第7号](#)を参照する。



アスパラガス

(巡回調査：6月18～23日)



巡回調査時の生育状況

1. 茎枯病

1) 予報の内容

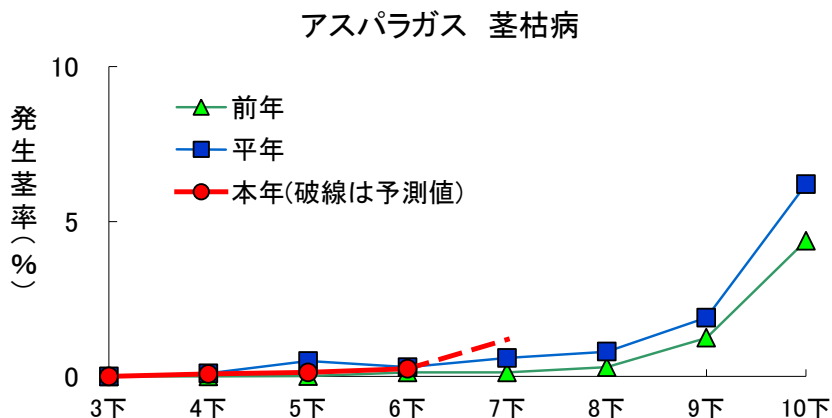
発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

- (1) 巡回調査では、発生株率は0.3%（平年0.3%、前年0.1%）であり、平年及び前年並である。〈±〉
- (2) 気象予報では、やや多発生条件となっている〈±〜+〉。（降水量やや多：±〜+）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 罹病茎は早急に除去・処分し、防除を徹底する。
- (2) 雨の降り込みを防ぐため、強い雨風のときはサイドビニルを下ろす。



2. 斑点病

1) 予報の内容

発生量：**平年よりやや多い**（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 巡回調査では、発生株率は5.0%（平年5.9%、前年3.8%）であり、平年及び前年並である。〈±〉

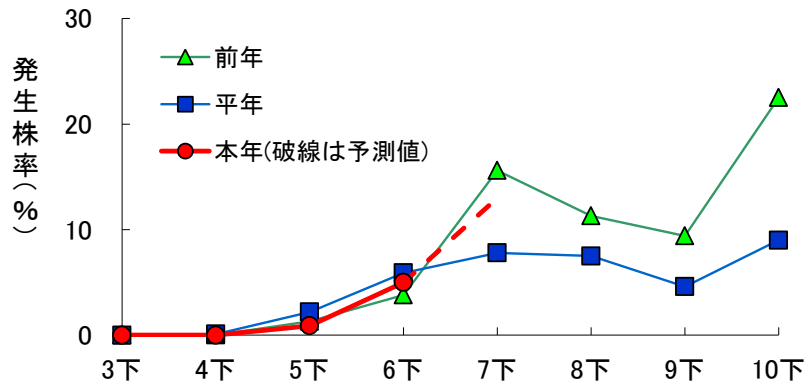
(2) 気象予報では、やや多発生の条件となっている〈±～+〉。（降水量やや多：±～+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 罹病葉は早急に除去・処分し、防除を徹底する。

(2) 過繁茂にならないよう、茎葉を適切に管理し、通風をよくする。

アスパラガス 斑点病



3. 褐斑病

1) 予報の内容

発生量：**平年よりやや多い**（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 巡回調査では、発生株率は0.6%（平年0.3%、前年0%）であり、平年並で前年よりやや多い。〈±〉

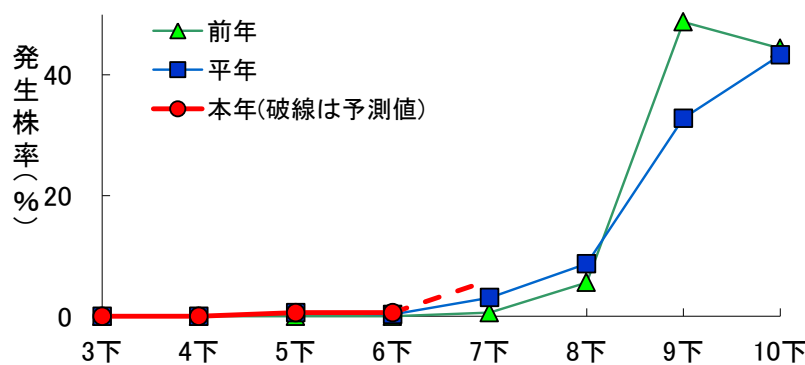
(2) 気象予報では、やや多発生の条件となっている〈±～+〉。（降水量やや多：±～+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 罹病葉は早急に除去・処分し、防除を徹底する。

(2) 過繁茂にならないよう、茎葉を適切に管理し、通風をよくする。

アスパラガス 褐斑病



4. アザミウマ類（ネギアザミウマ）

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 巡回調査では、寄生株率は16.9%（平年31.8%、前年20.6%）であり、平年よりやや少なく前年並である。（-～±）

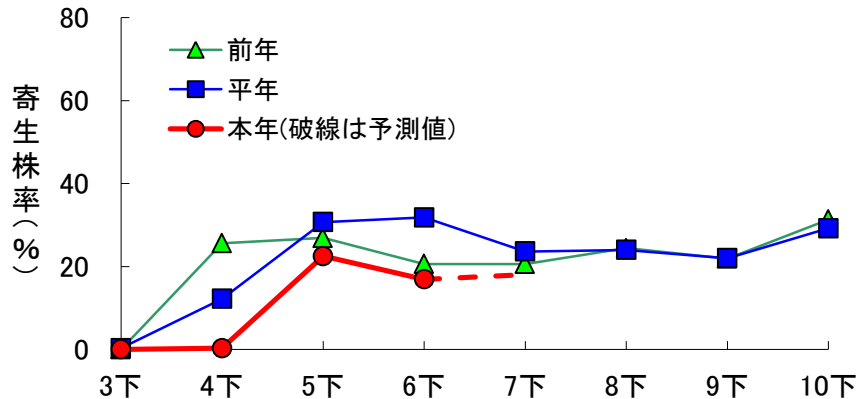
(2) 気象予報では、並発生の条件となっている（±）。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難であるため、低密度時からの防除を徹底する。

(2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。

アスパラガス アザミウマ類



5. ハダニ類

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年より少ない）

2) 予報の根拠

(1) 巡回調査では、寄生は認めていない（寄生株率：平年1.7%、前年6.9%）。（-～±）

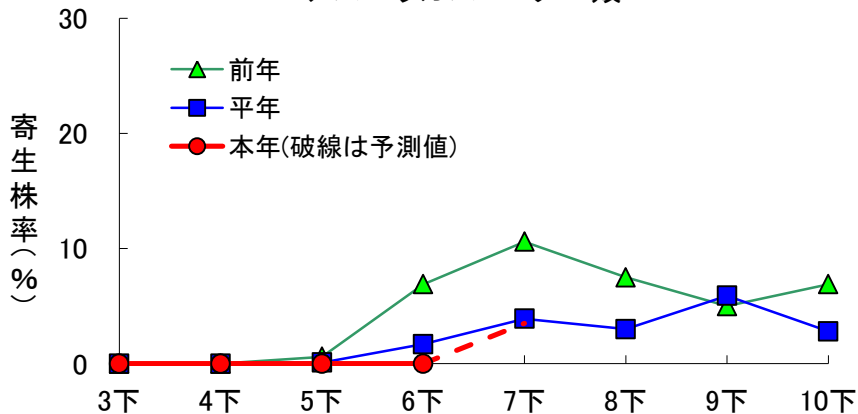
(2) 気象予報では、並発生の条件となっている（±）。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難であるため、低密度時からの防除を徹底する。

(2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。

アスパラガス ハダニ類



5. 病害虫等診断依頼状況

平成27年5月21日～6月20日までに農業技術防除センター及び各試験研究機関に持ち込まれ、同期間中に診断が完了した病害虫の診断結果は次のとおりです。

	作物名	依頼件数	診断結果(件数)
普通作	水稲	3	いもち病(1)、ピシウム属菌による苗立枯病(1)、生理障害等(1)
	計	3	
果樹	ブドウ	1	べと病(1)
	計	1	
野菜	アスパラガス	4	疫病(1)、茎枯病(1)、葉害(1)、生理障害等(1)
	イチゴ	13	萎黄病(5)、疫病(5)、萎黄病と輪斑病の混発(1)、ネグサレセンチュウ類(1)、生理障害等(1)
	キュウリ	4	緑斑モザイク病(1)、褐斑病(1)、べと病(1)、生理障害等(1)
	小ネギ	1	葉枯病(1)
	ジャガイモ	1	モザイク病(1)
	ショウガ	1	生理障害等(1)
	タマネギ	1	生理障害等(1)
	トマト、ミニトマト	9	茎えそ病(仮称)(2)、モザイク病(1)、黄化葉巻病(1)、褐色根腐病(1)、灰色かび病(1)、生理障害等(3)
	ナス	4	青枯病(2)、半身萎凋病(1)、アブラムシ類による食害(1)
	パセリ	4	疫病(2)、萎凋病(1)、ピシウム属菌による苗立枯れ(1)
	メロン	1	べと病(1)
	計	43	
花き	アスター	1	ダニ類による食害(1)
	カーネーション	1	葉害(1)
	キク	1	えそ病(1)
	シャクヤク	1	灰色かび病(1)
	シンテツポウユリ	2	立枯病(1)、生理障害等(1)
	トルコギキョウ	3	青枯病(1)、生理障害等(2)
	ホオズキ	10	モザイク病(3)、半身萎凋病(2)、ダニ類による食害(1)、生理障害等(4)
	リンドウ	1	えそ斑紋病(1)
	計	20	

合計： 21 作物
67 件

内訳

糸状菌による病害	: 31件
細菌による病害	: 3件
ウイルス・ウイロイドによる病害	: 11件
害虫類	: 3件
線虫類	: 1件
葉害	: 2件
生理障害等	: 16件
合計	67件

6. 全国・佐賀県で多発生している病害虫及び新たに発生した病害虫

主に5月26日～6月23日までに発表されたもの

警報・注意報（重要な病害虫の多発生が予想され、早めに防除する必要があるときに発表）				
発信元	内容	日付	作物	病害虫名
三重県	注意報	2015/05/25	ナシ、カキ等	果樹カメムシ類
京都府	注意報	2015/05/25	ネギ	ネギアザミウマ、ねぎ条斑病（IYSV）
福島県	注意報	2015/05/26	モモ	せん孔細菌病
宮崎県	注意報	2015/05/28	茶	炭疽病
茨城県	注意報	2015/05/28	ナシ	黒星病
栃木県	注意報	2015/06/03	水稻	縞葉枯病
高知県	注意報	2015/06/05	果樹全般	果樹カメムシ類
岩手県	注意報	2015/06/08	りんご	ハダニ類
熊本県	注意報	2015/06/11	イチゴ	ハダニ類
宮崎県	注意報	2015/06/18	早期水稻	いもち病
大分県	注意報	2015/06/23	早期水稻	いもち病

注：太字は九州地方で発表されたものを示す

特殊報（新たな病害虫が発生した時などに発表される）				
発信元	日付	作物	内容	
高知県	2015/05/28	パプリカ、トマト	ピーマンえそ輪点病、トマト茎えそ病（仮称）（CSNV）	
茨城県	2015/05/28	ニラ	ニラ褐色葉枯病	
山口県	2015/05/28	キウイフルーツ	キウイフルーツかいよう病（Psa3系統）	
大分県	2015/06/03	サトイモ	ナンヨウネコブセンチュウ	
大分県	2015/06/03	ピーマン	ピーマンえそ輪点病（CSNV）	
京都府	2015/06/05	トマト	トマト茎えそ病（仮称）（CSNV）	
高知県	2015/06/09	キウイフルーツ	キウイフルーツかいよう病（Psa3系統）	
千葉県	2015/06/12	キウイフルーツ	キウイフルーツかいよう病（Psa3系統）	
宮城県	2015/06/23	レンゲ	アルファルファタコゾウムシ	

注：太字は九州地方で発表されたものを示す

技術情報等（九州地方で発表されたもののみ）				
発信元	日付	作物	内容	
佐賀県	2015/05/28	茶	カンザワハダニの防除の徹底	
佐賀県	2015/05/28	イチゴ	ハダニ類の防除の徹底	
長崎県	2015/06/01	イチゴ	ハダニ類（育苗床）の防除対策	
宮崎県	2015/06/03	施設野菜	栽培終了時のアザミウマ類、コナジラミ類の防除対策	
宮崎県	2015/06/03	イチゴ	炭疽病、ハダニ類、アブラムシ類の防除対策の徹底	
宮崎県	2015/06/03	茶	チャノミドリヒメヨコバイの防除対策	
熊本県	2015/06/03	水稻	ヒメトビウンカのイネ縞葉枯病ウイルス保毒状況	
鹿児島県	2015/06/04	早期水稻	斑点米カメムシ類について	
鹿児島県	2015/06/05	果樹	果樹カメムシ類の発生状況について	
熊本県	2015/06/11	果樹	果樹カメムシ類の発生状況について	
熊本県	2015/06/11	ナシ	黒星病の防除対策について	
宮崎県	2015/06/12	早期水稻	斑点米カメムシ類について	
長崎県	2015/06/16	水稻	ヒメトビウンカの生息量及び保毒状況	

注：太字は佐賀県で発表されたものを示す

6月1日～8月31日の3か月間は農薬危害防止運動期間です。農薬の安全かつ適正な使用及び保管管理を徹底しましょう。

◎農薬散布後の止水期間は7日間です。水田用除草剤や本田粒剤の処理後7日間は落水やかけ流しをしないようにしましょう。

◎農薬の登録内容は変更されることがあります。

使い慣れた農薬でも、ラベル等で登録内容を確認しましょう。

もう一度確認!
その使い方で大丈夫?

農薬の保管は適切に
容器の移し替えは誤用のもと。

周辺環境への配慮を
土壌くん蒸後はしっかり被覆。

防護装備を正しく着用
マスク・保護メガネ・防除衣の3点を着用。

ラベルの確認も忘れずに!

平成27年度農薬危害防止運動
農林水産省・厚生労働省・環境省・都道府県共催

農薬危害防止運動 検索